

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24年 5月 25日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究B

研究期間：2009～2011

課題番号：21730138

研究課題名（和文） 地中海地域をめぐるフランスの多国間主義外交

研究課題名（英文） French Multilateral Diplomacy in the Mediterranean Region

研究代表者

坂井一成（SAKAI KAZUNARI）

神戸大学・大学院国際文化科学研究科・准教授

研究者番号：60313350

研究成果の概要（和文）：

本研究は、フランス歴代政権が冷戦後、地中海地域に対していかなる外交理念・戦略・政策を形成・展開してきたのかを明らかにし、その多国間主義外交の理念・戦略の本質を解明することを目的としてきた。この過程で、とくに地中海地域における予防外交の進展、EU（欧州連合）を舞台とした国家主権をめぐる国際環境の変化、フランスの安全保障文化という側面に着目する必要性が明らかとなり、これらの観点からフランスの具体的な地中海での対外政策の展開とその背景事情の解明に努め、総合的にフランスの対地中海外交の特質の検討・総括作業を進めた。

研究成果の概要（英文）：

This research focused on analysis on formation and development of French diplomacy in the Mediterranean region after the end of the Cold War, especially its idea and strategy based on multilateralism. We found the importance of preventive diplomacy in the region, changes of international environment about the state sovereignty at the stage of the European Union, significance of French security culture (strategic culture); the research was advanced through these focal points and was showed a comprehensive analysis of French multilateral diplomacy in the Mediterranean.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：国際関係論

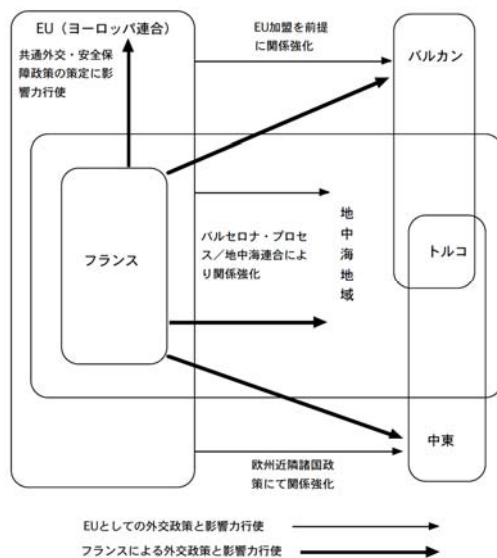
科研費の分科・細目：国際関係論

キーワード：フランス、地中海、安全保障、EU（欧州連合）、地域協力、安全保障文化、予防外交、多国間主義

1. 研究開始当初の背景

現代フランスの外交戦略は、手法面で多国間主義という色合いを濃く打ち出してきている。図で示すように、その外交の相手は、EU からバルカン諸国、中東、トルコと多岐にわたる。こうした構図のなかで、既存の EU を舞台とした多国間主義外交の一方で、サルコジ大統領のイニシアティブで発足した地中海連合が示すように、地中海地域を基盤に据えた多国間主義外交を推進している。しかし、そのフランス外交の理念・戦略の本質について、とりわけ地中海地域に対する外交に関しては、サルコジ大統領が EU と地中海を外交戦略上の2大拠点と定めているにもかかわらず、学術的に未解明であった。

図 フランスの地中海外交の構図



2. 研究の目的

冷戦後、とくに EU としての地中海政策であるバルセロナ・プロセスが登場した 1995 年以降に焦点を定め、そこでフランス歴代政権が地中海地域に対していかなる外交理念・戦略・政策を形成・展開してきたのかを明らかにし、その多国間主義外交の理念・戦略の本質

を解明することを目的とした。

その際、フランス自身、EU 加盟国であると同時に地中海国でもあり、その国家アイデンティティにおける二重性に注目しつつ、外交の両輪である両者をどう折り合わせるか、さらにはそこにいかにしてフランス外交にとっての相乗効果を見だし、それを確保していくのかという点に留意した。

3. 研究の方法

初年度(2009 年度)は、先ず基礎資料の収集に力点を置いて作業を行い、フランスの外交政策論に関する先行研究のサーベイに着手し、国内外の研究論文、及び 1990 年代半ば以降の外交に関わる主な政治家の演説や手記類の渉猟を進めた。併せてインターネットで検索可能なフランス国家機関(大統領府、首相府、外務省、国民議会等)資料、及び関連する EU(欧州連合)の公文書の収集を進め、フランスの対地中海外交の特質を検討する準備作業を行った。また政府資料の収集を行うとともに、フランス及び日本の新聞記事のデータベース検索も実施し、新聞報道ベースでの資料収集も進めた。

そして、フランスの研究者(パリ政治学院 R・アット氏=国際政治学・安全保障論、西パリ・ナンテール大学 G・フェラギュ氏=フランス・イタリア外交史ほか)との意見交換、並びに日本で入手困難な資料収集のために、フランスへの訪問調査を実施した。

研究成果の発表としては、6 月にアラブ首長国連邦・ドバイの湾岸研究センターにおけるワークショップにて“EU's Preventive Diplomacy on the Middle East”と題する報告を行い、湾岸地域まで含めた中東地域の専門家との意見交換を行った。また 11 月には日本 EU 学会研究大会において、「EU の対

中東政策—予防外交の観点から」と題する研究報告を行ったが、このなかでフランス・サルコジ政権がイニシアチブを握っている地中海連合についても取り上げ、EU が進める対中東外交の枠組のなかでフランスがどのような地中海外交を進めているのかについて発表した。

2年目（2010年度）は、フランスの地中海外交に関する内外の研究論文の渉猟を進め、併せてこの時期の大統領経験者であるシラクとサルコジの演説や手記類の検討を進めた。また、フランス外交を検討するに当たって、EU としての対外政策の展開も切り離して考えることはできないので、EU の公文書（とくに対地中海政策）の収集を進めながら、総合的にフランスの対地中海外交の特質の検討作業を進めた。

そして、フランス外務省において地中海政策担当官からのヒアリング調査を行ったほか、フランスと同じく EU 加盟国として地中海外交に深い関わりを持つイタリアの動向を探るため、イタリア及びフランスへの訪問調査を実施した。

研究成果の一部は、『日本 EU 学会年報』（第 30 号、2010 年 4 月、日本 EU 学会）に「EU の対中東予防外交—東地中海地域を中心に」を掲載して予防外交という文脈のなかでの地中海の位置づけを示し、日本国際政治学会研究大会（2010 年 10 月 30 日）では「EU 統合下における地域の形と国家主権の位相」と題する研究報告を行い、EU 共通外交の進展するなかでの国家主権の変容がフランスの地中海政策にどのように関わっているかという観点で発表した。

最終年度（2011 年度）は、フランスの地中海外交に関する内外の研究論文の渉猟を継

続しつつ、安全保障文化（あるいは戦略文化）という概念に注目しつつ、フランスの具体的な地中海での対外政策の展開とその背景事情の解明に努め、総合的にフランスの対地中海外交の特質の検討・総括作業を進めた。

そして、フランスの研究者（西パリ・ナンテール大学 G・フェラギュ氏、パンテオン・アサス大学（パリ第 2 大学）J・J・ロッシュ氏＝国際政治学・安全保障論、エコール・ミリテール・J・デュフルク氏＝フランス外交論・地中海戦略論ほか）との意見交換のほか、フランスと同じく EU 加盟国として地中海外交に深い関わりを持つイタリア・スペインの動向を探るため、ナポリ東洋大学 N・ランナ氏＝地中海国際関係、同 S・ソンマ氏＝イタリア外交、カタロニア放送大学 L・ロペスヴィダル氏＝スペイン外交などとも意見交換を行った。

これらの作業を踏まえて研究成果を「EU 統合と拡大の軌跡—トルコをめぐる確執と拡大のゆくえ」佐藤洋治・鄭俊坤編『アジア共同体の創成に向かって』（芦書房、2011 年 11 月）、「フランスの対外政策における地中海の存在意義—歴史的文化的背景と安全保障文化」『国際政治』第 167 号（2012 年 1 月）として公表した。

さらに、ウェブ誌『nippon.com』（2011 年 12 月 15 日付および 2012 年 2 月 14 日付け）においても、『アラブの春』と日本外交～地中海から見えてくること』を日本語とフランス語で公表して、本研究の成果の日本外交分析への応用と、その国内外への発信を行った。

4. 研究成果

フランスの地中海地域における多国間主義外交の理念・戦略・政策をひもとくと、第 1 に、地中海地域における予防外交を進める

ことが、フランスの安全保障にとって不可欠であることが理解される。第2に、統合の進むEUを舞台として国家主権が相対化されてきているが、ここでフランスはEUに自らの主権を移譲しつつも、EUのイニシアチブを背景に地域の国際制度化を進め、中長期的にはそこから従前以上の利益を上げる戦略を展開している。地中海地域におけるEUとしての外交・安全保障の展開においてもそうした戦略が確認できる。第3に、フランスの安全保障文化に着目して検討すると、歴史的文化的な地中海地域とのつながりを背景に、EUとともにフランス外交の欠かせない足場としてこの地域が機能しており、上述の予防外交的手段や、国家主権を一時的にEUに委ねながら文民的手法を前景化して地域の安定・安全に関与することを是とする、政権が変わっても通底している戦略・政策が見いだされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①. 坂井一成「フランスの対外政策における地中海の存在意義—歴史的文化的背景と安全保障文化」『国際政治』第167号、2012年1月、102-115頁。(査読付き)
- ②. 坂井一成「EUの対中東予防外交—東地中海地域を中心に」『日本EU学会年報』第30号、2010年4月、132-154頁。(査読付き)

[学会発表] (計3件)

- ①. 坂井一成「EU統合下における地域の形と国家主権の位相」(日本国際政治学

会、2010年10月30日、札幌コンベンションセンター)

- ②. 坂井一成「EUの対中東政策—予防外交の観点から」(日本EU学会、2009年11月15日、同志社大学)
- ③. SAKAI Kazunari, “EU's Preventive Diplomacy on the Middle East,” Workshop by MEP/GRC at the Gulf Research Center, Dubai, 29 June 2009

[図書] (計1件)

- ①. 佐藤洋治、鄭俊坤、坂井一成、石渡利康、井上桂子、川戸秀昭、吉本隆昭、岡本博之、堅尾和夫、吉田正紀、川副令『アジア共同体の創成に向かって』芦書房、2011年11月

[その他]

ホームページ等

- ①. 「『アラブの春』と日本外交」、<http://nippon.com/ja/currents/d10001/>、一般財団法人ジャパンエコー、2011年12月掲載。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

坂井一成 (SAKAI Kazunari)

神戸大学・大学院国際文化学研究所・准教授

研究者番号：60313350

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし